神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力コース	対象学年	1～3年
講義日	令和6年12月9日（木）		
テーマ	戦後日本外交と沖縄		
講　師	同志社大学政策学部　月村太郎		

講義内容

1945 年に敗戦してから、戦後の日本は来年に 80 年目を迎えます。日本はサンフランシスコ講和条約後に、国際社会に復帰することになりました。この間に、いわゆる連合国による占領行政は、日本の国家安全保障政策に関して大きな変化を見せます。冷戦構造の成立により、不安定な朝鮮半島情勢に鑑み、日本は西側世界、特に米国によるグローバル安全保障政策のアジアにおける橋頭堡の役割を担うことになりました。しかし日本国憲法の規定により、日本は、十全の規模・装備を有する「軍隊」を持つことはありませんでした。このことは、国家安全保障の根幹を米国に委ねるという、防衛問題の根源的課題を日本に突きつける一方で、そうであるが故に多くの資源を経済発展に振り向け、非常に稀な経済成長を遂げることができました。そして、経済大国になった日本による政府開発援助が、多くのアジア諸国の発展に繋がったことも事実です。この講義の前半では、国家安全保障だけでなく、それと並んで外交を支えてきた両輪である政府開発援助の実態にも触れながら、戦後の日本外交を振り返ってみます。

講義の後半には、沖縄に焦点を当ててみたいと思います。沖縄は、アジアにおける米国の地域的安全保障の中心のひとつですが、その点について、我々の理解はどこまで進んでいるのでしょうか。隣国の圧力が強化されているのであればある程、我々は沖縄に対する理解を深めなくてはいけないと思います。

日本の国家安全保障政策について論ずると、国家的合意の位置がどの辺りにあるのかについて必ずしも明らかではないので、政治化、イデオロギー化してしまうことが良くあります。この講義を通じて、日本の戦後外交について理解を、一緒に含めていきたいと思います。

講師からのメッセージ

この講義で取り上げられないことについても、日本外交について皆さんが普段から感じている疑問がありましたら、是非とも講師に問いかけてみてください。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力　コースコース	対象学年	3　年
講義日	令和　6　年　11　月　19　日（　火　）		
テーマ	イギリスの移民政策（英国事情）		
講　師	岡田　章宏　（神戸大学名誉教授）		

講義内容

近年、欧米諸国に大量の移民が押し寄せ、それを排斥しようとする機運が高まり、様々な政治な軋轢を引き起こしています。本講義で扱うイギリスでも、2016 年の EU 離脱を決めた住民投票では、その背景に移民問題があったことはよく知られています。また、2021 年頃から英仏海峡を小型ボートで渡る不法移民が急増したため、イギリス政府は彼・彼女らをそのまま空輸しアフリカのルワンダで保護し、そこで難民認定（庇護）する計画を実施しようとしたところ、多くの批判を呼んだことは日本の新聞でも紹介されました。

今日、移民の流入に強い抵抗を示すイギリスですが、大英帝国の歴史を持つこの国では、第二次大戦後、西インド諸島やインド、パキスタン等「新英連邦（ニュー・コモンウェルス）」の諸国から多くの移民が流入し、非熟練労働者として経済成長の土台を作りました。その後も流入は止まらず、今日では、国民のうち白人系ブリテン人（White British）は約 8 割で、あとの 2 割が移民または移民の背景を持つ人とされています。

本講義では、こうした多くの移民を抱えるイギリスにおいて、これまでどのような移民政策がとられてきたのかを少し詳しく説明しながら、その上で、今日の動きを紹介していく予定です。

日本では移民問題は必ずしも関心は高くありませんが、それでも、最近になって少子高齢化による人口減少問題が説かれるようになると、外国人労働者への「期待」が語られる場面もみられるようになりました。そうした日本の状況も踏まえて、お聞きいただきたいと思います。

講師からのメッセージ

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力　コース	対象学年	３年
講義日	令和　６ 年　６ 月　21 日（ 金 ）		
テーマ	ロシアとウクライナ：戦争に至るまでの歴史的背景		
講　師	渋谷　謙次郎		

講義内容

ロシアがウクライナに軍事侵攻してから、すでに2年以上が経過し、出口は見えないままである。本講義は、ロシア・ウクライナ戦争の先行きについて予測または予言する（それは不可能といってよい）のではなく、むしろロシアとウクライナとの関係の歴史を紐解いてみたい。現在を知るには、過去を知るしかない。

高校時代の世界史の教科書などでは、ロシアやポーランドに関する歴史の記述は出てきても、ウクライナに関する記述は、ほぼなかったといってよい。それはなぜか。理由は、ウクライナが主権国家として独立したのが、1991 年のソ連解体によってであり、それ以前は、ソ連やロシア帝国、ポーランドの歴史の中に埋もれていたからである。

そこで、本講義では、ウクライナの歴史的起源を含めて、現代にいたるまでのウクライナの歩みについてロシアやポーランドとの関係の中で辿ってみる。のみならず、現代のウクライナは、実は7つの国と国境を接しており、ロシア以外の近隣諸国の間でもウクライナの支援をめぐって温度差があることの背景についても、触れてみたい。

このようして、限られた時間内ではあるが、戦争の歴史的背景について、多角的に検討できれば幸いである。

講師からのメッセージ